

六算解除(ろくさんよけ)のおふだ

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

本資料(図 1)は、市内で採集したおふだです。「六算解除病氣平癒守護」と墨書されており、その左側に「二十六歳男」と墨書されています。中にある内符には墨書で天御中主命(あめのみなかぬしのみこと)他 4 柱の神名と、「二十六才男六算解除病氣鎮」などと書かれ、下端に五芒星らしき印もみえます。

「ろくさん」というのは、「六三」あるいは「六算」とも書き、年回りによって身体の特定の部位に宿り、病いをひきおこすと考えられたある種の霊的存在です。ろくさんに関し、その知識や災いを除く呪い(まじない)は全国でみられ、ろくさんが宿る場所を知るために、身体を九つの部位に分けて一から九までの数字をあて、数えの年齢を九で割った余りの数に相当するところが「ろくさんにあたっている」とするのが共通するそうです。『飯能市史 資料編Ⅵ(民俗)』に、「六三よけ」の項があり、双柳で撮影された写真が掲載されています(図 2)。また、「一三足の、二六の腕、五七が肩で、四腹八股、九頭」(男女で反対)という文言を原市場・東吾野・精明で採集、加えて呪いの方法を吾野・八幡町・双柳で聴き取っています。八幡町では、昭和 3・4 (1928・1929)年頃に「六三よけの先達という人が青木からやってきた」という話、双柳では「父親の代に、先達から人柄を見込まれて秘法の伝授を受け、頼まれて人のためによけを行った」という話を聴き取り、掲載しています。飯能市域でも「六三よけ」が行われ、それは『飯能市史』の調査が行われた昭和 50 年代まで残っていたようです。本資料も、「六三よけの先達」や、その先達から秘法を伝授された人物が作った可能性があります。

一緒に括られていた約 30 点のおふだから作られた年代を考えてみましょう。墨摺りのものは含まれておらず、目を引いたところでは明治 5(1872)年から配布が開始された伊勢神宮の神宮大麻が 4 点、「武蔵御嶽神社」(昭和 27 (1957) 年に御嶽神社から改称)のおふだが 6 点含まれています。これらのことから、本資料は明治時代以降のものと思われ、明言は避けませんが昭和 20 年代後半を中心とした、その前後の時期に作られた可能性を考えます。

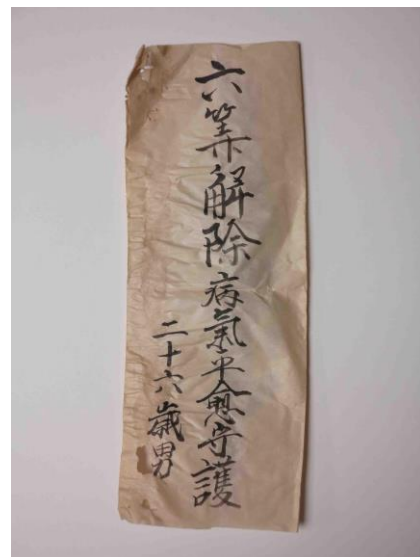


図 1 六算解除のおふだ



図 2 「六三よけ」のまじない
(大字双柳地内)

引用・参考文献

福田アジオ他編『日本民俗大辞典 下』(吉川弘文館 平成 12 (2000) 年 819 ページ)

飯能市史編集委員会編『飯能市史 資料編Ⅵ(民俗)』(飯能市 昭和 58 (1983) 年 201・202 ページ)